

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

## 念願の涸沢紅葉 前岡山県専門委員長 田中初四郎

ずっと訪れたかった紅葉の涸沢に定年の年にやっと行きました。現在の勤務校に変わり「紅葉を愛でる会」と称し、10月の3連休に職場の同僚と紅葉を見に行っています。今まで2008年：白山・白川郷、2009年：立山・黒部溪谷、2010年：乗鞍岳・白川郷（10人乗りレンタカーで6～10人）、2011年：焼岳・西穂高岳・岳沢（精鋭3人）で紅葉を見てきました。

今回も今まで同行した方々に呼びかけたのですが、美女2人を伴っての山行となりました。5日仕事を終わって出発。6日に日付が変わったあたりで朴の木平スキー場駐車場に着き仮眠、平湯からタクシーで上高地大正池へ。大正池から上高地をゆっくり散策し、横尾山荘で宿泊。横尾山荘は宿泊日1ヶ月前の朝7時から予約開始。小生も7時から電話するもなかなかつながらない。7時30分ごろやった電話がつながり予約できた。その日の内に満室。この時期の山荘は宿泊者であふれる。今年の涸沢ヒュッテは布団一枚に3名とか。ところが、横尾山荘は定員以上は泊めないようで畳一枚のベッドに快適に泊まれた。

3時30分起床、4時ヘッドンを頼りに横尾を出発。山荘前の吊り橋を渡り始めてびっくり。河原にいっぱいテントが張られていた。あたりが白み始めた5時、本谷橋到着、一本を取る。涸沢に向けて登るにしたがい明るさが増し、周囲の様子が見え、きれいな紅葉が目に入り始める。涸沢岳の右のピラミダルな峰が見え始めるあたりで息をのむ絶景。三段紅葉の絶景。稜線付近がガスの中ですっきりした青空でないのが残念だが欲は言えない。ここで、涸沢で合宿している大さんをアマチュア無線で呼びかける。運良くつながり、ザイテングラードの取り付け付近で、周囲は白一色とか。写真を撮りながら涸沢のテントサイトへ。朝食の弁当を食べる。さすがに寒い。穂高山荘に着いた大さんとアマチュア無線で稜線の状況などを話をする。降雪の中、奥穂高岳へ生徒に促されて登り始めた。

8時過ぎ涸沢を出発し、パノラマ新道経由で上高地を目指した。この山域の一般登山



道で唯一歩いたことがないのがパノラマ新道で、大さんから大渋滞で大変だったと聞いていたので不安であった。何方か歩きにくいところがあるものの人が少なく紅葉を愛でながらスムーズに屏風ノコルまで登れた。大変だったのは、岩場の歩きにくいところで奥穂高岳山頂の大さんから呼びかけられたこと。屏風ノ耳で、横尾尾根越しにガスの切れ間に槍ヶ岳が見えそうだったのでゆっくりするもガスが晴れず残念。今年で秋山を止めようと思っていたが、屏風ノ耳から見える横尾右俣の紅葉を見ないで止められない思いが強くなった。

どうにか上高地を出て、福地温泉で一泊。朝起きると雲ひとつない快晴。乗鞍岳に登って帰ることにする。朴の木平バスターミナルについてびっくり。バス停に長蛇の列。聞くと路面凍結で朝からスカイラインが閉鎖中で、いつ解除されるかわからない。あまりに天候がいいので待つことに。9時前になって解除、10時過ぎに豊平に到着。剣ヶ峰を目指して出発、11時頃、360度のパノラマが待っていた。乗鞍高原側のハイマツの緑にナナカマドの赤が映える。苦勞して登った人しか見ることの出来ない絶景、止められない・・・？



## 編集子のひとりごと

松田さんに続いて田中さんからも涸沢、乗鞍の美しい紅葉の写真が届きました。長い猛暑の夏が終わり、急速に秋が訪れたからでしょうか？今年の秋は紅葉がことのほか美しいようです。松本の自宅から眺めていても、山々が少しずつ色づいてきたのがわかります。「山彩る」秋・・・爽やかな空気が一層美しさを際立たせています。下左の写真は石川県山岳協会理事長の石森長博さんから送られてきた立山の紅葉です。

ついでに、ヨーロッパの秋の写真も1枚。青空の下の会心の写真とはいきませんでした。登山鉄道にひとつひとつ揺られながら、眺めたユングフラウです。この横にメンヒ、アイガーの岩壁が連なる様子は圧巻でした。下からは見えていたのですが、ユングラウフヨッホの展望台に出た時には雪交じりのガスの中、強風が吹き荒れていました。そんなわけで、残念ながら氷河の上に出ることはできませんでした。(大西 記)

